

講義コード	1052710002
講義名称	教育心理学 02<秋>
科目英文名	Educational Psychology
代表ナンバリングコード	0EDU2400
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
小松 佐穂子

授業形態	講義	グループワーク
------	----	---------

講義・演習概要	教育心理学の主要テーマである幼児・児童および生徒の心身の発達と学習の過程について、はじめに、発達に関する教育心理学理論や研究成果を概観する。次に、学習に関する理論や研究成果を概観し、各発達段階の心理的特性に対応した主体的学習を支える指導上の基礎理念について、学校教育との関連に基づき論じる。そのうえで、教師に求められる深い見識とそこから導き出される適切な教育的指導および支援の在り方とはどのようなものかを考察する。
学習（到達）目標	【テーマ】 幼児・児童・生徒の心身の発達および学習の過程 【授業の到達目標】 (1) 幼児・児童・生徒の心身の発達過程の様相と特徴について、発達概念・発達段階・発達過程等の教育心理学理論やその研究成果を学んで基礎的知識を習得し、定型発達および障害に関する具体的な内容を理解している。 (2) 幼児・児童・生徒の学習過程の様相と特徴について、学習概念・動機づけ・授業形態・学習指導・教育評価等の教育心理学理論やその研究成果を学んで基礎的知識を習得し、各発達段階の心理的特性に対応した主体的学習を支える指導上の基礎理念を理解している。

講義・演習計画

回	内容
第1回	教育心理学の授業を始める前に（授業の概要・課題・到達目標）
第2回	発達の基礎概念
第3回	発達段階理論
第4回	乳幼児期における心身の発達
第5回	児童期・思春期における心身の発達
第6回	青年期における心身の発達
第7回	適応と障害の理解
第8回	学習の基礎理論
第9回	学習と記憶
第10回	学習の動機づけと学習意欲
第11回	授業形態と学習指導
第12回	学級集団の理解
第13回	教育評価の方法
第14回	教室の内外での「主体的・対話的で深い学び」
第15回	まとめ(幼児・児童・生徒の心身発達の過程およびその特性に応じた学習指導の在り方)

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
----	----

レポート	80%
その他	20%

成績評価の方法（コメント）	①授業ごとにその内容に関するコメントの提出を求め(M-Portを通じウェブ提出)、主体的・積極的な授業への参加の程度を評価する(20%)。 ②加えて、学期の中間点でレポート課題を指示し、M-Portを通じファイル提出を求める(40%)。 ③および、学期末にレポート課題を指示し、M-Portを通じファイル提出を求める(40%)。 ④それらの結果に基づき、修得した知識および論理的な思考力・表現力について総合的に評価を行う。
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	テキストは使わないが、スライド（パワーポイント）、インターネット、DVD教材、印刷物などを通じて授業に必要な資料を提供する。					

参考文献	・鎌原雅彦・竹網誠一郎（著）『やさしい教育心理学』（第5版）有斐閣 ・子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司（著）『教育心理学』（第3版）有斐閣 ・多鹿秀継（著）『教育心理学（第2版）一より充実した学びのために』サイエンス社 ・文部科学省『中学校学習指導要領』（2017年3月告示） ・文部科学省『高等学校学習指導要領』（2018年3月告示）
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	・授業情報（授業課題、レポート課題など）は、M-Port を通じて提供する。授業の前後にそれらの情報を確認し、課題提出および予習・復習・発展学習のために役立てること。
その他備考（担当教員用）	・この授業は、教職課程の必修科目の一つとして開講されている。教員養成に特化された専門的なテーマが扱われ到達目標も高く設定されているため、日常的な学習努力とその積み重ねを必要とする。安易な気持ちで履修登録を行わないよう留意すること。 ・課外活動として、スクールサポーター、学校ボランティアなどがある。教育現場でのさまざまな体験を通して、授業で修得した知識を実践的に確認することができるので、機会を見つけ積極的に参加してほしい。
キーワード	発達理論、発達段階、発達過程、学習理論、学習過程、学習指導、教育評価

講義コード	1116230001
講義名称	経営学B 01<秋>
科目英文名	Business Management B
代表ナンバリングコード	BUSA1000
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
齋藤 巡友

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	経営学とは、企業経営に係る現象を解き明かすための学問である。経営学が生み出した知識や理論は、企業経営に直接的に関与する人にとって不可欠だけでなく、企業と個人の関わりが強い現代においては殆ど全ての人にとって有用なものとなるであろう。本講義では、経営学を初めて学ぶ人を主な対象として、全体像がつかめるように経営学における重要な概念や理論を説明していく。その際、適宜事例をとりあげて説明することによって、それらの概念や理論が現実の企業経営を読み解くうえでどのように利用できるのかを実感してもらう。
学習（到達）目標	本講義の学習目標は以下の通りである。 1. 経営学がどのような学問であるかを理解する 2. 経営学の基礎的な知識・概念を自分の言葉で説明できるようになる。 3. 新聞・雑誌で報道される企業経営に関するニュースを経営学の理論を用いて自分なりに解釈できるようになる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション：授業内容や授業方針、成績評価について
第2回	マーケティング1：マーケティング・ミックス
第3回	マーケティング2：消費者行動
第4回	マーケティング3：セグメンテーション
第5回	人的資源管理1：人的資源の活用（人材の獲得、育成）
第6回	人的資源管理2：人的資源の活用（人材の評価、処遇）
第7回	生産管理1：テイラーの科学的管理法
第8回	生産管理2：フォード・システム、トヨタ生産方式
第9回	財務管理1：財務諸表からわかる企業の実態
第10回	財務管理2：資金の時間的価値、投資の評価
第11回	財務管理3：資金の調達、利益の還元
第12回	企業の国際化
第13回	コーポレート・ガバナンス1：エージェンシー問題
第14回	コーポレート・ガバナンス2：コーポレート・ガバナンスのメカニズム
第15回	試験およびまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	70%
レポート	
その他	30%

成績評価の方法（コメント）	①到達目標に対応する試験を期末に実施する。試験では、経営学の基礎的な知識や概念の理解度を確認するための問題を短答式・記述式を組み合わせた形式で出題する。成績評価における点数配分は70％ ②授業内容の理解度を確認するための小課題・小テストを授業期間中に複数回出題する。点数配分は30％ ※なお、講義に対して積極的に参加（講義中に発言するなど）している学生には別途加点する。
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	東北大学経営学グループ	ケースに学ぶ経営学（第3版）	学生独自購入	978-4-641-18448-0	有斐閣	

参考文献	適宜指示する。
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	事前学習としてテキストの該当箇所を読むこと（該当箇所は講義時に指定する）。事後学習においては、講義で扱った概念や理論の復習を行うとともに、それらの概念や理論を用いて解釈することができる事例を自分で探してみること。
その他備考（担当教員用）	第1回の授業時に受講するうえで重要な情報（授業運営の方針、成績評価等）を説明するため、初回授業への参加を本講義の履修の前提とする。やむを得ない事情により出席できない場合や遅刻する場合は必ず事前に担当教員に連絡すること。 ※第1回目の授業に無断で欠席または遅刻した場合、本講義の履修を認めない可能性もある。 本講義は経営学A01の講義内容の後半部分に相当するものである。担当教員が異なるクラス（講義名称の末尾の数字が異なる）の「経営学A」とは内容に連続性がない場合があるので、履修の際は十分に注意すること。
キーワード	マーケティング論、人的資源管理論、生産管理論、財務管理論、コーポレート・ガバナンス、国際経営論
備考(管理者用)	（旧：経営学）02～19生読替

講義コード	1116530002
講義名称	心理学B 02<秋>
科目英文名	Psychology B
代表ナンバリングコード	0PSY2400
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
岡崎 満希子

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

講義・演習概要	この授業では、「現代の心を取りまく課題と心理的支援」について概説する。 教育や臨床の場面では、さまざまな心の問題に対処するため、心理学理論を応用して研究開発された「心理的支援」に関する理論と技法が利用されている。現代の心の問題と心理的支援の実際について、「現代の心を取りまく課題」「日常生活と心の問題」「心理学のアセスメント」「カウンセリングと心理療法」の観点から基礎的知見と研究成果を概観し、現状と課題および展望について考察する。
学習（到達）目標	・現代の心を取りまく課題と心理的支援の実際について理解している。 ・日常生活と心の健康との関係を理解している。 ・心理学理論と心理的支援の技法を応用して、さまざまな心の問題を探究し適切な対応策を考えることができる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション：現代の心の問題と心理的支援
第2回	現代の心を取りまく課題①：脳と心
第3回	現代の心を取りまく課題②：アタッチメントの形成とその障害
第4回	現代の心を取りまく課題③：発達障害
第5回	現代の心を取りまく課題④：発達障害児への教育的支援
第6回	現代の心を取りまく課題⑤：児童虐待問題とその対策
第7回	日常生活と心の問題①：ストレスとメンタルヘルス
第8回	日常生活と心の問題②：心理病理と精神疾患
第9回	心理学のアセスメント①：アセスメントの基本的考え方
第10回	心理学のアセスメント②：アセスメントの実際
第11回	カウンセリングと心理療法①：カウンセリングの理論と技法
第12回	カウンセリングと心理療法②：クライエント中心療法と精神分析学
第13回	カウンセリングと心理療法③：行動療法と認知行動療法
第14回	心理的支援の課題と展望
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	60%
レポート	
その他	40%

成績評価の方法（コメント）	①授業内容に関する考えや感想を書いて提出する。提出のタイミングと方法はその都度指示する。 ②学期末に期末試験を実施する。
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.						m-portに毎回の授業資料（ppt）を掲示する。その他、インターネット、DVD、印刷物などによって資料を提供する。

参考文献	・長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行（著）『はじめて出会う心理学（第3版）』有斐閣アルマ ・その他、授業内で示す。
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	・授業内で示すテーマについて、次回までに予習をしておく。 ・授業内容において関心を持った領域やテーマに関して、授業資料で示した参考文献等を通じて理解を深める。
キーワード	脳と心、アタッチメント、発達障害とその支援、児童虐待、心の問題、心理学的アセスメント、心理療法
備考(管理者用)	（旧：心理学）02～19生読替☆SW・SD生は履修不可

講義コード	1480240001
講義名称	憲法B 01<秋>
科目英文名	Constitutional Law B
代表ナンバリングコード	0LAW1010
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
森口 佳樹

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	憲法の基本的内容について解説する。憲法規定の内容を理解したうえで、それをめぐる学説・判例について紹介・検討することとする。憲法Bでは、統治機構を中心に講義する。
学習（到達）目標	憲法規定について、自らが主体的に説明できる能力を身につけてもらうことを目標とする。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	社会権
第3回	参政権
第4回	国務請求権
第5回	国会
第6回	内閣
第7回	裁判所
第8回	司法権をめぐる判例
第9回	違憲立法審査権
第10回	財政
第11回	地方自治制度
第12回	国民主権
第13回	天皇
第14回	平和主義
第15回	統治機構のまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	10%
レポート	90%
その他	

成績評価の方法（コメント）	受講生数によるが、基本的には試験に代わる単位認定レポートを主たる評価の対象とする。補助的に数回小テストを行い、補足的な成績評価の対象とする。 単位認定レポートは事例式の問題となり、学説・判例の理解を前提として課題に対する考え方を検討する問題となる。成績報告期限との関係で短期間の
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	森口佳樹他	ワンステップ憲法	大学オンライン 販売	978-4-7823-0546-1	嵯峨野書院	

参考文献	別冊ジュリスト「憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ 第7版」(有斐閣)
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	講義中に指定する判例については、よく復習しておくこと。
備考(管理者用)	(旧：憲法) 02～19生読替

講義コード	1610430000
講義名称	経営組織論　＜秋＞
科目英文名	Organization Theory
代表ナンバリングコード	BUSA2410
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
陳　燕双

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	現代社会において、私たちは様々な組織と深く関わり、その中で生活を営んでいます。皆さんの学生生活においても、学校、サークル、アルバイト先、病院、行政機関、地域のボランティア組織など、多岐にわたる組織との接点を持っていることでしょう。これらの組織において、私たちは直接活動に参加し、報酬（例えば、サークルでの友情や帰属感、アルバイト料など）を得たり、顧客としてサービスや製品を購入し、豊かな生活を実現する手段として利用しています。さらに、多くの学生は「大学」という組織から卒業後、「企業」という組織に加わり、成長していきます。私たちの生活は、あらゆる側面で組織と密接に結びついているのです。 私たちの日常生活を支える組織ですが、そもそも組織とは何なのか、じっくりと考えたことがありますか？組織とは、何らかの目標を達成するために、人々が集まって生まれる協働体です。一人で行えることは組織なしで行えますが、複数人でしか成し遂げられない事柄が組織の存在意義を生み出します。言い換えると、1人ではできないことが組織ではできるのです。すなわち、組織は目標達成のための素晴らしい手段です。 この講義では、さまざまな組織、組織における個人とチーム、組織と外部環境とのダイナミックな関係性などを考えます。皆さんがこの講義を通じて、組織に関する知識を学び、新たな視点を獲得することを目指します。
学習（到達）目標	1.組織を理解するための基礎理論と概念を習得し、その知識を使って、企業、行政組織やサークルなど身のまわりの組織を理解できるようになること。 2.組織のダイナミズムを把握し、将来のキャリアにおいて、効果的なリーダー像や管理者像をイメージできること。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション：授業の進め方、成績評価等、経営組織論とは？
第2回	組織と組織化： 組織とは、組織の3要素、組織化の理由、組織の役割、組織プロセス
第3回	組織の種類（1） 営利と非営利、非営利組織の活動プロセス、近年の社会的企業(Social Enterprise)と社会的企業家(Social Entrepreneur)を見る（事例）
第4回	組織の種類（2） 現代企業の望ましい二つの方向、社会性への二つのアプローチ及びその類似性・異質性
第5回	グループ・ダイナミックス 3種類の協働、集団力学、集合知のパワー、集団圧力、集団浅慮、社会的手抜き
第6回	集団凝集性と多様性のマネジメント 集団凝集性とは、日本型チームの特徴、なぜ多様性は大事なのかを考える
第7回	認知的多様性の力と心理的安全性のある組織環境 Edmondsonの病院組織研究、4つの対人不安、Google社の生産性改革プロジェクト「アリストテレス」
第8回	組織における失敗と組織学習：効果的な組織学習の諸条件
第9回	リーダーシップ（1）リーダーシップ研究の変遷（2000年代以前） 特性論、行動論、状況適応論、変革論
第10回	リーダーシップ（2）リーダーシップ研究の変遷（2000年代以後） 現実のリーダーの多面性を考える
第11回	リーダーシップ（3）サーバント・リーダーシップ その特質と事例
第12回	組織と環境（1）：環境の変化と不確実性、企業組織の対応

第13回	組織と環境（2）：イノベーションとは、両利きの経営とは 計画&コントロール、創発的な組織
第14回	組織と環境（3）：組織変革
第15回	総括

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	60%
レポート	40%
その他	

成績評価の方法（コメント）	テスト：学期の中間と期末にそれまでに学修した内容を網羅的に問う講義中テストを行います。テストの期日は授業中&M-Portでアナウンスします。 ミニレポート：資料（映像や文献）を利用し、講義内容を踏まえて資料の内容を考察するミニレポート（4回程度、300字～500字程度／回）を提出していただきます。 加点制度：講義中で紹介した文献を読み、自主的に感想文（500字以上、M-Port提出）を提出される場合、5点の加点を行います。ただし、加点の上限は10点です。
---------------	---

参考文献	エイミー・C・エドモンドソン（2014）『チームが機能するとはどういうことか』英治出版、第四章（pp.150-194） シュール・サイド著、有枝春訳（2016）『失敗の科学：失敗から学習する組織、学習できない組織』デスカヴァー・トゥエンティワン 安藤史江等（2019）『経営組織』中央経済社 鈴木竜太（2018）『経営組織論』東洋経済新報社 舟津昌平（2023）『組織変革論』中央経済社 参考図書に興味・関心を持つ学生は、各自図書館へ足を運び、学習してください。授業中でも随時参考文献を紹介します。
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間）	講義資料は穴埋め形式で共有されます。毎回出席し受講することが大事です。講義中はしっかり講義ノートを作りましょう。 講義後に講義資料&ノートを復習し、ミニレポート課題に取り組んでください。また、毎週の講義で習ったことが、自分の身の回りの現象、自身の経験とどのように繋がっているのかを常に意識しながら勉強を進めると、学習は楽しくなります。
備考(管理者用)	（旧：経営管理論）02～20E・B生、08～20SS・SW・L・J生読替

講義コード	1786520000
講義名称	日本文化研究-文化財保護修復と日本文化B　＜秋＞
科目英文名	Study of Japanese Cultures-Japanese Culture and the Conservation of Cultural Properties　B
代表ナンバリングコード	CULT3420
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
山内　章

授業形態	講義	実務経験のある教員による授業①
文化財修復の現場で絵画や彩色資料の調査と保存修復に取り組んでいます。		

講義・演習概要	①主に江戸時代から明治時代前期の建造物彩色や絵画・奉納絵馬・人形類を対象として文化財保存修復の視点から日本文化について解説します。②様々な保存修復の目的・考え方・修復方法を学びます。③日本の寺院壁画と同時代（朝鮮時代後期）の韓国寺院壁画の構造と絵具類、修復方法を解説します。④文化遺産を活用した町おこしのアイデアを8コマ漫画で表現します。
学習（到達）目標	①江戸時代から明治時代前期の絵具類の種類や使い方を理解する。②文化財保存修復の目的・考え方・修復方法を理解する。③日本韓国の寺院壁画の類似点と相違点を理解し保存修復の現状を知る。④クラウドファンディングを活用した資金調達方法を知り、町おこしのアイデアを創る。

講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンスー文化財保存修復の基礎は文化財を構成する素材を学ぶことー
第2回	江戸時代から明治時代前期の絵具類
第3回	江戸時代の絵具展色材
第4回	絵具の破損・劣化・損傷の諸相
第5回	寺院建造物天井絵の保存修復
第6回	寺院壁画の保存修復
第7回	朝鮮時代後期の寺院壁画の構成素材と絵具類
第8回	朝鮮時代後期の寺院壁画の保存修復
第9回	神社本殿彩色の調査と修復
第10回	奉納絵馬の保存修復ー複合素材の現状維持修復ー
第11回	人形類の保存修復ー現状維持修復と補彩ー
第12回	剥落止め処置による現状維持保存と補彩復元
第13回	文化遺産を活用した町おこしのアイデア①ークラウドファンディングの活用
第14回	文化遺産を活用した町おこしのアイデア②ー8コマ漫画で表現する
第15回	授業内試験ーレポート作成ー

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	50%
レポート	25%
その他	25%

成績評価の方法（コメント）	授業の終わりにレポートを作成します。出席を重視しますが、授業内試験（レポート）の点数を総合して成績を評価します。
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間）	授業日前にM-portに授業資料を配信します。資料を読み、事前学習を行ってください。また、授業資料は秋学期終了までM-Portに掲示します。事後学習に活用してください。
備考(管理者用)	（旧：日本文化研究－文化財保護修復と日本文化）02～10E・06～10CBCC・02～17L生読替

講義コード	1A10110000
講義名称	世界の市民-戦争と正義-日本を巡る国際法上の諸問題　＜秋＞　※遠隔授業（同時双方向型）
科目英文名	World　Citizen-War and Justice: International Law Issues on Japan
代表ナンバリングコード	WDCZ1000
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
松村　昌廣

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	世界市民になるには、世界情勢に対する深い理解とともに、道徳的な判断力も必要です。とりわけ、多大な人命が犠牲になり、甚大な物理的破壊をともなう戦争と正義の問題は重要です。実際、第二次世界大戦・大東亜戦争・太平洋戦争（立場により、呼称が異なる）の敗戦国であった日本はドイツやイタリアとともに「侵略国」と位置付けられ、国際的な非難にさらされてきた一方、そうした位置付けを巡って、わが国の国内外でも賛否が激しく議論されてきました。そこで、本講義では、こうした議論を行う際の「始まり」であり、往々にして「終わり」である国際法上確定した事実などを詳しく解説します。
学習（到達）目標	戦争は始まりから終わりまで国際法に従って行われます。そうしなければ、国際法に違反することとなり、国家やその軍隊、場合によっては、個人の政治指導者や軍人は責任を負わねばなりません。国際法上、戦争はいつ、どのように始まり、終わるのでしょうか。また、戦争中は何が許され、何が許されないのでしょうか。本講義では、日本のケースに焦点を絞って、こうした論点を具体的に考えていきます。学生諸君の中には高校の世界史や日本史の授業で近現代史に関する知識を十分身につけていない者も散見されますが、こうした学生は本講義をとることによって、基本的な知識を習得するきっかけとなるでしょう。また、本講義の内容を十分習得すれば、わが国の戦争と正義の問題に関する論争をより深く理解し、自分なりの意見を持つことが可能になるでしょう。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	正義と戦争　－　国際法の観点
第2回	日米開戦
第3回	原爆投下・空襲
第4回	「無条件降伏」と占領（１）
第5回	「無条件降伏」と占領（２）
第6回	東京裁判
第7回	サンフランシスコ講和条約
第8回	台湾（１）
第9回	台湾（２）
第10回	千島列島・北方領土（１）
第11回	千島列島・北方領土（２）
第12回	南樺太（南サハリン）
第13回	竹島
第14回	尖閣列島
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	

その他	
-----	--

成績評価の方法（コメント）	講師が設定した問題と手順で、受講生に講義で扱った内容を基に持ち帰りのレポート試験（2500字～3000字）の作成・提出を求めます。十分な時間（恐らく週末を含め7～10日以上の間）を設定し、受講生が自分でとった講義ノートその他資料を見ながら、じっくり考えて作成できるようにします。
---------------	--

参考文献	・色摩力男『日本人はなぜ終戦の日付をまちがえたのか』黙出版、2000年。 ・芹田健太郎『日本の領土』中公文庫、2010年。 ・各自必ず、インターネットから関連の条約等をダウンロードして、ファイルの形で自分の「条約集」を作ってください。
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	講義の進度に合わせて、参考文献に挙げた書籍を読んでください。
備考(管理者用)	（旧：世界市民-戦争と正義-日本を巡る国際法上の諸問題）02～19生読替☆遠隔授業（同時双方向型）

講義コード	1116530005
講義名称	心理学B 05<秋>
科目英文名	Psychology B
代表ナンバリングコード	0PSY2400
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
小松 佐穂子

授業形態	講義	その他
		簡単な心理テスト・調査の実施

講義・演習概要	この授業では、「現代の心をとるまく課題と心理的支援」について概説する。 教育や臨床の場面では、さまざまな心の問題に対処するため、心理学理論を応用して研究開発された「心理的支援」に関する理論と技法が利用されている。現代の心の問題と心理的支援の実際について、「現代の心をとるまく課題」「日常生活と心の問題」「心理学的アセスメント」「カウンセリングと心理療法」の観点から基礎的知見と研究成果を概観し、現状と課題および展望について考察する。
学習（到達）目標	・現代の心をとるまく課題と心理的支援の実際について理解している。 ・日常生活と心の健康との関係を理解している。 ・心理学理論と心理的支援の技法を応用して、さまざまな心の問題を探究し適切な対応策を考えることができる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション：現代の心の問題と心理的支援
第2回	現代の心をとるまく課題①：脳と心
第3回	現代の心をとるまく課題②：アタッチメントの形成とその障害
第4回	現代の心をとるまく課題③：発達障害
第5回	現代の心をとるまく課題④：発達障害児への教育的支援
第6回	現代の心をとるまく課題⑤：児童虐待問題とその対策
第7回	日常生活と心の問題①：ストレスとメンタルヘルス
第8回	日常生活と心の問題②：心理病理と精神疾患
第9回	心理学的アセスメント①：アセスメントの基本的考え方
第10回	心理学的アセスメント②：アセスメントの実際
第11回	カウンセリングと心理療法①：カウンセリングの理論と技法
第12回	カウンセリングと心理療法②：クライアント中心療法と精神分析学
第13回	カウンセリングと心理療法③：行動療法と認知行動療法
第14回	心理的支援の課題と展望
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	80%

その他	20%
-----	-----

成績評価の方法（コメント）	①授業ごとにその内容に関するコメントの提出(M-Portを通じウェブ提出)を求め、授業への主体的・積極的な参加状況を確認する(20%)。 ②加えて、学期の中間点でレポート課題を指示し、M-Portを通じファイル提出を求める(40%)。 ③および、学期末にレポート課題を指示し、M-Portを通じファイル提出を求める(40%)。 ④それらの結果に基づき、修得した知識および論理的な思考力・表現力について総合的に評価を行う。
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.						テキストは使わないが、スライド（パワーポイント）、インターネット、DVD、印刷物などによって資料を提供する。

参考文献	・加藤伸司・山口利勝（編著）『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 21 心理学理論と心理的支援 第2版』ミネルヴァ書房 ・長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行（著）『はじめて出会う心理学（第3版）』有斐閣アルマ
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	・授業情報（授業課題、レポート課題など）は、M-Port を通じて提供する。授業の前後にそれらの情報を確認し、課題提出および予習・復習・発展学習のために役立てること。
キーワード	アタッチメント、発達障害、児童虐待、心の問題、心理学的アセスメント、カウンセリング、心理療法
備考(管理者用)	（旧：心理学）02～19生読替☆SW・SD生は履修不可

講義コード	1480240002
講義名称	憲法B 02<秋>
科目英文名	Constitutional Law B
代表ナンバリングコード	0LAW1010
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
森口 佳樹

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	憲法の基本的内容について解説する。憲法規定の内容を理解したうえで、それをめぐる学説・判例について紹介・検討することとする。憲法Bでは、統治機構を中心に講義する。
学習（到達）目標	憲法規定について、自らが主体的に説明できる能力を身につけてもらうことを目標とする。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	社会権
第3回	参政権
第4回	国務請求権
第5回	国会
第6回	内閣
第7回	裁判所
第8回	司法権をめぐる判例
第9回	違憲立法審査権
第10回	財政
第11回	地方自治制度
第12回	国民主権
第13回	天皇
第14回	平和主義
第15回	統治機構のまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	10%
レポート	90%
その他	

成績評価の方法（コメント）	受講生数によるが、基本的には試験に代わる単位認定レポートを主たる評価の対象とする。補助的に数回小テストを行い、補足的な成績評価の対象とする。 単位認定レポートは事例式の問題となり、学説・判例の理解を前提として課題に対する考え方を検討する問題となる。成績報告期限との関係で短期間の
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	森口佳樹他	ワンステップ憲法	大学オンライン 販売	978-4-7823-0546-1	嵯峨野書院	

参考文献	別冊ジュリスト「憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ 第7版」(有斐閣)
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	講義中に指定する判例については、よく復習しておくこと。
備考(管理者用)	(旧：憲法) 02～19生読替

講義コード	1560550000
講義名称	地域研究ⅡB　＜秋＞
科目英文名	Area Study Ⅱ B
代表ナンバリングコード	POLS2460
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
塚田　鉄也

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	近代以降、ヨーロッパ諸国は積極的な対外進出を進め、世界各地の政治や社会に大きな影響を与えてきました。現在のヨーロッパはかつてほど「世界の中心」とは言えなくなりましたが、それでも、日本をはじめとする多くの国にとって重要な参照点であり続けています。本講義では、ベネルクス三国、北欧諸国、南欧諸国、中東欧諸国、ロシア、そしてEU（欧州連合）を取り上げ、歴史的背景、政治の基本構造、現代の争点という三点にわたって検討していきます。
学習（到達）目標	①各国の政治と社会の特徴を、歴史的背景を含めて理解し、説明できる ②各国が直面している問題やそうした問題への対応を理解し、説明できる

講義・演習計画

回	内 容
第1回	ヨーロッパ研究の意義
第2回	ヨーロッパの多様性
第3回	ベネルクス三国①：歴史的背景
第4回	ベネルクス三国②：基本構造と争点
第5回	北欧諸国①：歴史的背景
第6回	北欧諸国②：基本構造と争点
第7回	南欧諸国①：歴史的背景
第8回	南欧諸国②：基本構造と争点
第9回	中東欧諸国①：歴史的背景
第10回	中東欧諸国②：基本構造と争点
第11回	ロシア①：歴史的背景
第12回	ロシア②：基本構造と争点
第13回	EU①：歴史的背景
第14回	EU②：基本構造と争点
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	
その他	100%

成績評価の方法（コメント）	各回の内容について課される確認テスト（M-Portの「テスト」を利用）により評価する。なお、盗用等の不正行為が確認された場合は、その段階で不合格とする。
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	二宮書店編集部	データブック・オブ・ザ・ワールド2025	学生独自購入	9784817605276	二宮書店	

参考文献	松尾秀哉ほか編『教養としてのヨーロッパ政治』（ミネルヴァ書房、2019年）
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間）	テキストの指示された部分を事前に読んでおいてください。
備考(管理者用)	（旧：地域研究Ⅱ）02～19E・SS・SW・B・L・J生読替

講義コード	1620330000
講義名称	経営史B　＜秋＞
科目英文名	Business History B
代表ナンバリングコード	BUSA2440
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
小島　正稔

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	経営史は、企業の経営の仕方がどのように発展し変わってきたかを扱っています。その経営の仕方の視点は、個別企業を分析する視点、企業家的（企業家活動的）視点、企業のスタートアップ（誕生）・事業の創造、産業の形成などの視点があり、地域を日本やアメリカに限定するもの、地域間比較するなどさまざまです。この講義では、多様な視点から、現在の企業と企業社会が作られてきた過程を史的に考察することで、現在の企業社会の仕組みを理解することを目的にします。 講義は個別企業のケースとそれを題材にした学習テーマから構成されます。企業の経営や時代を理解するため、関連した映像資料などによって、過去の経営状況や経営環境を理解した上で、講義では考えながら企業の経営について学びます。
学習（到達）目標	1. 企業の経営上の課題を、時代背景とともに説明できる。 2. 企業家活動の源泉について、具体的な企業家を例に説明できる。 3. ビジネスシステムの発展について具体的な事例によって説明できる。 4. 企業文化、経営理念を具体的な事例によって説明できる。 5. 産業の成立と法規制の関係について、具体的な事例によって簡潔に説明できる。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	講義のガイダンス 講義の内容、課題への取り組み方を含めた講義への参加の仕方について説明します。
第2回	「変革型リーダーとその特徴を考える－起業家はスーパーマンか」 起業家概念の変質起業家社会の構築について考える
第3回	流通イノベーション　①スーパーマーケットの誕生と発展、②流通革命と卸売業、
第4回	流通イノベーション（2） ①流通革命にダイエーが果たした役割とは、②中内と松下、③日本の小売の輪
第5回	流通イノベーションとコンビニエンスストア　コンビニエンスストアの発展史（鈴木敏文）
第6回	流通イノベーションとコンビニエンスストア（2） ①小売の情報化、②延期と投機、③購買リスクと業態の発達
第7回	物流イノベーションとヤマト運輸 ①戦後の日本経済の発展概略　繊維、造船、鉄鋼、②日本経済のサービス化と産業セクター
第8回	物流イノベーションと新サービスの開拓者　ヤマト運輸の宅配便の開発（小倉昌男）
第9回	社企業の成立（渋沢栄一）（1） ①産業革命と殖産工業
第10回	社企業の成立（渋沢栄一）（2） ②会社制度の導入（渋沢が導入した会社制度とは）
第11回	中小企業の始まりと役割
第12回	フランチャイジング発展史 わが国におけるフランチャイジングの萌芽　A&W、不二家のケース
第13回	フランチャイジング発展史（2）米国におけるフランチャイジングシステムの生成 ①マコーミック、②シンガーミシン

第14回	フランチャイジング発展史（3）米国におけるフランチャイジングシステムの発展 ①フォード自動車、②サンオイル、③ハワードジョンソン
第15回	フランチャイジング発展史（4） フランチャイズシステムの完成 ④ドミノピザ、⑤コンビニエンスストア 講義の理解度の確認と講義のまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	0%
その他	0%

成績評価の方法（コメント）	試験はすべて講義の内容的な区切りの段階で行う。仮にオンラインのテスト機能を使用する場合でも、試験はすべて対面で実施する（講義室以外の受験は原則として認めない）。成績は試験の得点と課題点によって決める。 試験の回数は、進行状況によりますが、3～6回行います。（回数はあくまで進行状況によるので決まっていません） 成績は上記を基本にしますが、講義に積極的に参加し、発言や質問をしたものには、発言点を追加することもあります。 毎回レジュメを配布します。テキストは使用しません。
---------------	---

テキスト

	著 者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	経営史講義のレジュメ		プリント配布			

参考文献	1からの経営史 宮本 又郎（編集）, 岡部 桂史（編集）, 平野 恭平（編集）中央経済社 ディッキー『フランチャイジングー米国における発展過程ー』河野、小嶋訳、まほろば書房1992年。 川辺信雄『新版 セブンイレブンの経営史』有斐閣、2003年 宇田川勝・生島淳『企業家に学ぶ日本経営史』有斐閣、2011年 宮本又郎・岡部桂史・平野恭平『1からの経営史』碩学舎、中央経済社、2014年
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	事前学習 レジュメをダウンロードし、参考文献などで指定された箇所を読み、重要な用語を事前学習すること。この学習には、毎回2時間×15回＝30時間を必要とする。また事後学習として、講義で説明された内容を確認、理解すること。この学習には、毎回2時間×15回＝30時間を必要とする。
キーワード	流通イノベーション、コンビニエンスストア、スーパーマーケット、物流イノベーション、フランチャイジング
備考(管理者用)	（旧：経営史）02～20生読替

講義コード	1C02380000
講義名称	歴史学〔2〕-第二次世界大戦の終結と東アジア　＜秋＞
科目英文名	History-The End of World War II and East Asia
代表ナンバリングコード	HIST1000
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
島田　克彦

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	この授業では、第二次世界大戦を終結させたサンフランシスコ講和条約について、戦争責任・戦後責任、植民地支配、人権という観点から学びます。1940年代から50年代の日本の政府と社会は、戦争や植民地支配をどのように問題とし、何を切り捨てたのでしょうか。そしてこれらの問題は、現代に至る歴史をどのように形作ってきたのでしょうか。この授業を、世界の市民として羽ばたくみなさんが、歴史認識をみずから養い、深める力を鍛える機会としてほしいと思います。
学習（到達）目標	第二次世界大戦の終結と戦後東アジア世界の形成について、説明できるようになること。 21世紀を生きる「世界の市民」として、歴史認識をみずから養う力を獲得すること。

講義・演習計画

回	内容
第1回	イントロダクション　授業の進め方について説明します。
第2回	第二次世界大戦の終結
第3回	日本国憲法の制定　―戦後日本社会の形成―
第4回	旧体制の解体と持続　―戦争責任と植民地支配責任―
第5回	東アジアの激動と講和への動き
第6回	サンフランシスコ講和会議
第7回	中間まとめ
第8回	サンフランシスコ講和条約の構造
第9回	サンフランシスコ講和条約の問題点
第10回	中間まとめ（講和条約の問題を中心に）
第11回	サンフランシスコ講和条約第三条と沖縄
第12回	サンフランシスコ講和条約第三条とアメリカ
第13回	戦後体制の形成　―憲法・安保体制または1952年体制―
第14回	予備日
第15回	全体のまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	55%
その他	45%

成績評価の方法（コメント）	【授業への出席】と【授業ごとの課題】をセットで評価し、「その他」に配点します。 レポート課題を2回出す予定です。そのうち1回でも提出していないと単位を認定しません。
参考文献	内海愛子『朝鮮人ＢＣ級戦犯の記録』勁草書房、1982年（岩波現代文庫、2015年 林博史『ＢＣ級戦犯裁判』岩波書店（岩波新書952）2005年 内海愛子『戦後補償から考える日本とアジア』山川出版社（日本史リブレット68、2版）2010年 林博史『米軍基地の歴史 世界ネットワークの形成と展開』吉川弘文館（歴史文化ライブラリ ー336）、2012年 内海愛子・大沼保昭・田中宏・加藤陽子『戦後責任ーアジアのまなざしに於いて』岩波書店、 2014年 古関彰一・豊下楯彦『沖縄 憲法なき戦後 講和条約三条と日本の安全保障』みすず書房、 2018年 豊下楯彦他『沖縄を世界軍縮の拠点に 辺野古を止める構想力』岩波書店（岩波ブックレット 1022）、2020年
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	次回に向けての予習を提示します。予習で準備した上で、授業に出席すること。
キーワード	第二次世界大戦 サンフランシスコ講和会議 サンフランシスコ講和条約 植民地支配 沖縄
備考(管理者用)	（旧：共通教養特別講義－第二次世界大戦の終結と東アジア）14～19生読替

講義コード	1C02390000
講義名称	歴史学 [2] -中国近世近代史　＜秋＞
科目英文名	History-History of Early Modern and Modern China
代表ナンバリングコード	HIST1000
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
辻　高広

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	現代の中国を理解する上で、それに連続する時代である明清時代を理解することは不可欠である。本講義では、主に明清時代中国の社会、文化、政治、経済などの諸事象を取り上げ、中国が伝統時代から近代に至る過程について学ぶことを目的とする。 ※本講義では中国の歴史について、高校世界史レベルの知識を有することを前提とする。授業の最初に適宜小テストを行なうので知識に自信のない者は事前に高校の教科書などを読んで学んでおくこと。 ※この授業ではM-Portや各種情報検索ツールを積極的に使用し、レジュメなどはM-Portを通じてpdfで配布する予定であり、受講時にはPCやタブレット端末などの持参を推奨する。
学習（到達）目標	明清時代中国の社会、文化、政治、経済的諸要素が近現代中国に直接的、間接的に結びついていることを理解する。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	ガイダンス
第2回	作られた伝統中国イメージ
第3回	明清時代の社会―皇帝はいても貴族はいない中国
第4回	明清時代の社会―城郭都市と市鎮
第5回	明清時代の社会―ノブレス・オブリージュに依存する社会
第6回	明清時代の文化―中国は儒教国家？
第7回	明清時代の文化―明清時代の家族と家庭
第8回	明清時代の文化―水郷都市と伝統城郭都市
第9回	明清時代の政治―中華思想と王朝国家
第10回	明清時代の政治―官僚システム
第11回	明清時代の政治―宗主権と領有権
第12回	明清時代の経済―予算概念のない国家財政
第13回	明清時代の経済―経済の南高北低
第14回	明清時代の経済―朝貢貿易とアジア交易圏
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	40%
レポート	40%
その他	20%

成績評価の方法（コメント）	学期中に各テーマの内容理解度を確認する複数回の小テストを、学期末には授業内容全体の理解度を確認する試験を課す。また、学期中に複数回のミニレポートを課す。
---------------	--

参考文献	尾形勇・岸本美緒編『新版世界各国史3 中国史』山川出版社、1998年 講談社『中国の歴史』シリーズ（全12巻）、2004年～2005年 木村靖二ほか著『詳説世界史』山川出版社、2017年改訂 その他、各テーマに関わる参考文献は授業中に適宜指示する。 その他各テーマに関わる参考史料は授業中に適宜指示する。
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	授業前には指示する時代について、高校教科書および参考文献に目を通し、その時代背景について基礎的な知識を身につけておくこと。授業後には講義内容について確認し、理解不足の点があれば質問すること。
備考(管理者用)	（旧：共通教養特別講義－中国近世近代史）14～19生読替

【社会人の方へ】
レジュメは全てM-Portを通じてpdf形式で配布します。受講時には印刷するか、PC・タブレット端末などpdfファイルを閲覧できる環境をご準備下さい。

講義コード	1N06070000
講義名称	西洋法制史B　＜秋＞
科目英文名	European Legal History B
代表ナンバリングコード	0LAW2600
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
鈴木　康文

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	近世から第2次大戦までのヨーロッパにおける法と法学の歴史を概観します。
学習（到達）目標	①各時代の政治・社会の状況を理解する。 ②上記①を前提に、その時々 の法と法学のあり方を学び理解する。 ③過去との比較を通じて現代の法のあり方を考察する。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	ガイダンス
第2回	繋がりゆくヨーロッパと世界　※テキスト第11講
第3回	マイノリティたちの西洋法史　※テキスト第12講
第4回	第2～3回の補足
第5回	西洋法史における主権国家の萌芽　※テキスト第13講
第6回	西洋法史における近世自然法論の役割　※テキスト第14講
第7回	自由主義経済と西洋法史　※テキスト第15講
第8回	第5～7回の補足
第9回	ドイツ同盟から北ドイツ連邦まで　※テキスト第16講
第10回	ドイツ帝国からナチス政権まで　※テキスト第17講
第11回	第9～10回の補足
第12回	出版・結社の自由、課税権・予算権　※テキスト第18講
第13回	法源、契約、所有　※テキスト第19講
第14回	プロイセンの法曹養成　※テキスト第20講
第15回	第12～13回の課補足

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	0%
その他	100%

成績評価の方法（コメント）	毎回の小テストなど：100％　※点数を合算して成績を評価します。 ※課題の詳細については第1回のガイダンスで説明します。
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	宮坂渉・松本和洋・ 出雲孝・鈴木康文	史料からみる西洋法史	大学オンライン 販売	978-4589043399	法律文化社	2024年

事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	事前学習：テキストの該当箇所を読んでおいてください。 事後学習：授業で学んだことを思い出しながらテキストを再び読んでください。
備考(管理者用)	（旧：西洋法制史）17～19J生読替☆（旧：法制史-西洋法制史）02～16J生読替

講義コード	1116030001
講義名称	経済学B 01<秋>
科目英文名	Economics B
代表ナンバリングコード	ECON1000
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
木村 佳弘

授業形態	講義	その他
		PCスキル前提 (google formへの入力)

講義・演習概要	本講義はマクロ経済学の入門講義です。マクロ経済学は一国経済全体の動きを把握し、国民生活の維持安定および発展のための具体的な政策に役立てる学問です。直観的な理解が容易いものではないため、ミクロ経済学よりも難度が高くなります。単位取得はそれだけ難しくなりますが、修得した知識は広い範囲で役立ててことができます。
学習（到達）目標	この講義に積極的に参加することを通じて ①マクロ経済学で必要とされる基本的な数学的知識を身に付けることができる。 ②マクロ経済学の基礎理論を使い、一国経済の現状を理解する能力の基礎を得ることができる。 ③国際経済の現実的諸関係について理解する能力を得ることができる。 ④マクロ経済学の理論を深く学ぶための基礎能力を得ることができる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	マクロ経済学とは
第2回	マクロ経済を観察するⅠ マクロ経済のパフォーマンスを測定する
第3回	マクロ経済を観察するⅡ 物価指数と労働に関する指標
第4回	金融市場
第5回	貨幣の機能と中央銀行の役割
第6回	財政の仕組みと機能
第7回	マクロ経済学における三つの市場
第8回	国内総生産と金利の決まり方 ①消費関数と国内総生産の決定
第9回	国内総生産と金利の決まり方 ②投資関数、金融政策
第10回	国内総生産と金利の決まり方 ③IS-LM分析
第11回	総需要・総供給と物価の決まり方
第12回	AD-AS分析ワークショップ
第13回	インフレとデフレ
第14回	為替レート of 決まり方
第15回	試験とまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	

その他	100%
-----	------

成績評価の方法 (コメント)	<制度上> その他 100%
	<実務運用上> 講義時試験 30% 講義内課題 65% 講義への積極的参加等 5%
	学習目標の①、②、③、④を正確に理解できているかに関し、理解確認課題を課します。具体的には、講義時試験（30％）、講義時課題（講義内小試験＋毎回の講義内課題65％）、講義への積極的参加（5％）の三つで評価します。
	講義時試験は最終講義時に実施するもので、①に関しては計算問題の形で出題し、②、③、④に関しては正誤式、記述式（穴埋め問題）、論述式の形式でそれぞれ出題します。
	講義内課題は、毎回の講義課題が理解できているかを確認するものであり、①、②、③について短間で確認しますが、④について論述式で問うこともあります。
	講義への積極的な参加等（5点）は、講義に対し、講義受講者全体の理解を促進するような質問があった場合などについて加点を行うものです。具体的な基準例は第1回～第3回講義中にお示しします。

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	平口良司 稲葉大	マクロ経済学 新版	大学オンライン販売	9784641151116	有斐閣ストゥディア	

参考文献	福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門 第5版』有斐閣（ISBN978-4641220669）
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	事前：M-Portおよびteamsにアップロードされる資料から予習をしておく和良好的でしょう 事後：当日に出題された理解確認問題を正確に理解しておいて下さい なお、共通自由科目であり、 数学は極力少なめに設計されていますが、最低限は数学を解いて頂きます。 （連立一次方程式、変数2～5程度です。） 数学が苦手、という方でも丁寧にお教えいたしますが、 数学にアレルギー反応がある方は受講をお勧め致しません。 この講義はPCスキル（google formへの入力、動画閲覧環境、teamsへの加入・資料閲覧）を前提とします。 PCが苦手な方、PC環境が整っていない方は他の講義の受講を御勧めします。
備考(管理者用)	（旧：経済学）02～19生読替

講義コード	15D1010000
講義名称	音楽社会学　＜秋＞
科目英文名	Sociology of Music
代表ナンバリングコード	0SOC2510
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
木島　由晶

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	人はどのように音楽を聴いているのか。この授業では、統計データで裏付けをしながら、若年層の音楽生活を多面的に掘り下げていく。
学習（到達）目標	自分にとって好きか／嫌いかという感情から距離を置いて、音楽現象について客観的に記述・分析する力をやしなう。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	オリエンテーション
第2回	現代文化のなかの音楽
第3回	現代人の音楽への接し方
第4回	人びとの好きな音楽とそのカテゴリー
第5回	社会階層と音楽
第6回	世代と音楽
第7回	性差と音楽
第8回	ナショナリティと音楽
第9回	洋楽離れは本当か
第10回	聴衆を類型化する
第11回	音楽の好みと雑食性
第12回	音楽による情動のマネジメント
第13回	自己の安定化と音楽
第14回	ショート動画で音楽を聴く
第15回	まとめとふり返し

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	50%
レポート	50%
その他	

成績評価の方法（コメント）	授業後のコメントペーパーと期末レポートで評価をおこなう。
---------------	------------------------------

参考文献	南田勝也・木島由晶・永井純一・小川博司編, 2019, 『音楽化社会の現在——統計データで読むポピュラー音楽』新曜社
------	--

事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間）	学んだ内容を忘れてしまう前に、その日の内容を復習することを大切にしてほしい。講義は前に学んだ内容をふまえながら進めていくので、復習することがそのまま予習につながる。
キーワード	好み、ラジオ、メディア、J ポップ、音楽配信
備考(管理者用)	（旧：社会学特講－音楽社会学）02～09生読替（SS・文学部生のみ）

講義コード	15D1230000
講義名称	地域資源論　＜秋＞
科目英文名	Study on Area Resource
代表ナンバリングコード	0SOC2520
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
金　太宇

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

講義・演習概要	本講義は、地域資源の継承が求められている社会的背景や各地の実践的な取り組みの動向を解説するとともに、地域社会のマネジメントを担うさまざまな人びと（担い手・当事者・アクター）の視点をあきらかにし、そこに見られる課題や可能性について多面的に学ぶことを目的とするものである。本講義では、地域資源とは何か、地域資源がどのように変容・変質をしてきたのかを具体的に捉えながら、地域社会が抱える問題点および課題を正確に把握し、地域資源の活用方法について自ら提案できる能力を養う。
学習（到達）目標	本講義では、地域資源の管理と活用に関する知識を修得するとともに、地域資源を活用した地域活性化対策に関わる問題点の把握と問題解決のための対策を提示できる能力を育成する。 （1）地域社会・コミュニティ・地域の集団と組織について、その概念を説明できる。 （2）思考や目的が異なる人びとによる協働の可能性と限界について理解する。 （3）地域資源の持続的な利用と、それにもとづく地域資源のマネジメントのあり方について考える能力を身に付ける。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	イントロダクション
第2回	地域資源とはなにか：「資源」になりうるもの
第3回	地域社会の現状と課題
第4回	地域振興と内発的發展論
第5回	地域コミュニティの規範と伝統行事の継承
第6回	環境保全と地域資源の持続可能な利用・管理
第7回	高齢者の生き方と文化資源
第8回	移住・定住の促進と多様な主体の連携・協働
第9回	地域の価値と魅力の再発掘
第10回	農産品の認証制度と農産物ブランド化の取り組み
第11回	農産物のオーナー制度
第12回	荒廃農地の管理と鳥獣害対策
第13回	人材の育成と域学連携
第14回	事前復興と災害に強いコミュニティの構築
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	50%
その他	

成績評価の方法（コメント）	期末レポート（50%）と講義中に課すワークシート（50%）の成績を総合して評価します。
---------------	---

参考文献	牧野厚史・松本貴文編,2015,『暮らしの視点からの地方再生：地域と生活の社会学』九州大学出版会. 宮内泰介編,2017,『どうすれば環境保全はうまくいくのかー現場から考える「順応的ガバナンス」の進め方』新泉社. 三浦典子ほか編,2017,『地域再生の社会学』学文社.
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	地元新聞・インターネット等のメディアを活用して地域資源の管理と活用の取り組みに関する情報を収集すること。指定の参考書及び講義で紹介する文献等を事前・事後学習に活用すること。
キーワード	地域資源、地域コミュニティ、移住者、高齢者、農産品、持続可能性、地域活性化
備考(管理者用)	（旧：環境社会学）11～18E・11～15CBCC・10～18SS生読替☆（旧：社会学特講－環境社会学）02～09SS生読替

講義コード	1N10930000
講義名称	商取引法Ⅱ　＜秋＞
科目英文名	Commercial Law Ⅱ
代表ナンバリングコード	0LAW2480
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
大川　済植

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	〔本講義の目的〕 経済社会において、共同企業（株式会社や各種の組合）や個人企業（商店街の店舗や飲食店）は、商法上の「商人」として商取引を通じて経済的利益を追求する組織です。これらの商人は、商取引活動を通じて相互に依存し、経済的共同体を形成しています。本講義では、商法典（商法総則・商行為）に基づき、商法の基本概念や関連する法制度を理解し、実務に役立てることを目的とします。なお、「商取引法」という科目名称は、講学上の用語に過ぎません。 ≪商取引法Ⅱの重要性≫ 商法典の中で、商行為法は商人が行う商取引に関する基本的なルールを定めた法律です。この理解は商業活動にとって非常に重要です。商人とは、商品やサービスを提供する企業や個人事業者のことを指し、商行為は具体的な商取引を行うための法律行為です。 ・商行為通則の役割 商行為通則は、商取引の公正性や透明性を確保するための基準を示しています。これにより、商人は安心して商取引を行える環境が整います。この知識は、ビジネスパーソンとしての基礎を築くために欠かせません。 ・具体的な営業形態の例 1.代理商 例えば、締約代理商は、損害保険会社の損害保険商品を代理で販売・締結し、保険商品を広く流通させる役割を担います。代理商は、顧客に対して商品の説明や契約手続きを行い、保険会社と顧客の橋渡しをします。 2.商事売買 商事売買は、売り手と買い手の間で合意された条件に基づいて行われ、商品の引渡しや代金の支払いが行われます。この商事売買に関するルールは、売り手の利益を保護し、商取引の活性化を図るために設けられています。これにより、商取引がスムーズに進行し、双方が安心して取引を行える環境が整います。 3.仲立営業 売り手と買い手の間に立ち、取引をスムーズに進める役割を果たします。仲立営業者は、双方のニーズを理解し、最適な条件で取引が成立するように調整します。 4.問屋営業 問屋営業は、物品の販売や買入を取り次ぐことを業とする営業形態です。証券会社もこの問屋の一種で、一般の投資家から株式や債券の買い注文や売り注文を受け付けます。証券会社は、自分の名義でこれらの金融商品を扱い、投資家に提供します。この仕組みによって、投資家はさまざまな金融商品にアクセスでき、取引がスムーズに行われます。 5.運送営業 商品を運ぶサービスを提供し、物流を支える重要な役割を担っています。運送営業者は、顧客から依頼を受けて貨物を輸送し、効率的な配送を実現します。 6.倉庫営業 商品を保管するための倉庫を提供し、在庫管理を容易にします。倉庫営業者は、商品の出入庫を管理し、必要に応じて保管スペースを提供します。 7.場屋営業 旅館や飲食店など、客の集まりを目的とする場所での営業を指し、地域経済に貢献します。場屋営業者は、顧客にサービスを提供し、地域の観光や食文化を支えます。 ≪商法の知識の重要性≫ これらの営業形態を理解することは、ビジネスの基礎となります。また、交互計算やその他の決済手段を活用することで、取引を円滑に進めることができます。商法の知識は、ビジネスパーソンとして活躍するために非常に重要です。
---------	---

学習 (到達)目標	「商法」は、司法試験や公認会計士試験などの国家資格試験を目指す学生だけでなく、一般企業への就職を希望する学生にも提供される科目です。本講義の目的は、将来のビジネスパーソンとして最低限知っておくべき「企業取引」の基礎知識を身につけることです。
	受講生には、理論的かつ体系的に商法の理解を深めることを目指しています。この講義を通じて、商取引に関する基本的な法律や原則を学び、ビジネスシーンでの実務に役立てる力を養うことが期待されます。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	ガイドンスおよび商法の適用範囲を画する基本概念（＝商法総則と商行為法の視点） ・ガイドンス ・代理商① →代理商の意義 →商人を補助する者との比較
第2回	代理商② →代理商の義務 →代理商の権利
第3回	商行為通則
第4回	商事売買①
第5回	商事売買② ・留置権の比較
第6回	匿名組合①
第7回	匿名組合②
第8回	仲立営業①
第9回	仲立営業②
第10回	問屋営業①
第11回	問屋営業②
第12回	運送営業・運送取扱営業①
第13回	運送営業・運送取扱営業②
第14回	倉庫営業
第15回	場屋営業

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	40%
レポート	60%
その他	

成績評価の方法（コメント）	商取引法Ⅱの成績評価は、①授業への参加度や春学期理解力小テスト（配点：40点）、②レポート課題提出（配点：60点）を基に決定します。春学期理解力小テストは課題の形で2回実施され、成績評価の具体的な方法については、3回目の対面授業で詳しく説明します。
---------------	--

テキスト

	著 者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備 考
1.	北村雅史	商法総則・商行為法〔第2版〕	大学オンライン販売	978-4-589-04201-9	法律文化社	

	限られた授業時間内において、「商取引法Ⅱ」のすべての内容を網羅的に詳説することは物理的に不可能です。そこで、以下の2点に振り分けることで授業の効率化を図ります。
	・ 授業で講述すべき内容 ・ 受講生の自学自修に委ねるべき内容

事前および事後学習の指示
(事前学習 30 時間 ・事後
学習 30 時間)

本講義では、受講生が事前学習を行う際にテキスト等を読むだけで理解できる内容や、説明しなくてもよい内容については省略します。その代わりに、「商取引法Ⅱ」の基本的事項に焦点を当て、受講生が問題意識を持って具体的に考える授業を進めます。

受講生には、「商取引法Ⅱ」の主要内容から選別した重要論点を中心に授業内容を理解していただくため、テキストや予習（復習）用のレジュメ、復習資料（オンデマンド形式の録音ファイル）、参考文献などを活用し、授業で詳説しない内容や取り扱わない内容についても幅広く学習していただきたいと思います。

本講義では、商人の事業活動に関連する商法制度や法規について、受講生が全体像を理解できるように、分かりやすく図解しながら進めていきます。このアプローチにより、受講生は実務に役立つ知識を習得できることを目指します。ぜひ積極的に参加し、知識を深めてください。

キーワード	商事売買、代理商、匿名組合、仲立営業、問屋営業、運送営業・運送取扱営業、倉庫営業、場屋営業
備考(管理者用)	(旧：商取引法) 08～19E・J・10～19B生読替☆(旧：商法Ⅲ) 02～07E・J生読替

講義コード	14D2520000
講義名称	日本経済論Ⅱ　＜秋＞
科目英文名	Japanese Economy Ⅱ
代表ナンバリングコード	ECON1580
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
澤田　鉄平

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

講義・演習概要	日本経済はバブル崩壊以降長期の不況に沈んでいる。それは内的には一貫した内需縮小（消費税導入、増税、少子高齢化、産業空洞化）と外需依存構造の深化に規定され、さらに外的にはBRIC’s諸国の台頭、EU経済（通貨）統合など国外の経済環境変化への対応の不備に規定される。 そこで本講義では、バブル崩壊以降今日に至るまでの長期不況の構造を、世界経済の変化を踏まえつつ考察し、日本経済の構造的な課題を析出する。
学習（到達）目標	本講義に積極的に参加することを通じて 1バブル期以降の長期不況の要因についての体系的な理解 2日本経済低迷の要因についての自己の見解 を獲得することが目標である。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	本経済の学びとは何か？（イントロダクション） 新自由主義経済、失われた２５年について
第2回	主力産業の海外生産、浮かれた内需と消費税導入 ：バブル崩壊前夜
第3回	内需の急速な収縮、複合不況 ：平成大不況（その１）
第4回	不良債権と貸しはがし、倒産増大と投資低調、産業空洞化 ：平成大不況（その２）
第5回	公共事業の増加と「経済成長」、消費税増税 ：平成大不況（その３）
第6回	護送船団方式の終焉・金融再編 ：平成大不況（その４）
第7回	多軸化する世界経済と日本 ：冷戦構造の崩壊とグローバル競争の新基軸（その１）
第8回	BRIC’s諸国の台頭、生産拠点から消費市場へ、そして日本との競争 ：冷戦構造の崩壊とグローバル競争の新基軸（その２）
第9回	金融再編、持株会社解禁、企業集団の再編成 ：６大企業集団の再編
第10回	インターネット時代の到来、在来型ビジネスからの転換 ：ITと日本
第11回	制度問題、都市部と地方過疎、低下する賃金と高騰する生活費 ：少子高齢化問題と雇用流動化
第12回	生み出せない内需と外需の破綻 ：リーマンショック
第13回	事業仕分け、経済低調、そして消費税増税へ ：公共事業依存型経済と改革

第14回	円安誘導、雇用創出、地方創成、対米関係、国家財政歪みの極地へ ：アベノミクスの功罪
第15回	日本経済、明日への展望 ー今、何が生じているのかー

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	100%
その他	

成績評価の方法（コメント）	期末レポート40%、講義資料の課題提出60%です。課題は講義資料2回に1回分計6回出しますので、期末のレポートと合わせて必ず提出するようにしてください。
---------------	---

参考文献	紺谷典子（2008）『平成経済20年史』幻冬舎新書。 橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・齋藤直（2011）『現代日本経済 第3版』有斐閣。
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	参考文献のうちのいずれかを選び、バブル崩壊後の日本経済について予習すること。また講義各回はその前の回までの講義を前提とするため、各回を入念に復習すること。 M-Portに資料をアップするので、講義内容を繰り返し読み、わからない部分については自分で調べ、それでも理解できない場合は教員にM-Portで質問すること。
備考(管理者用)	（旧：日本経済論）02～10生読替

講義コード	15E3920000
講義名称	ソーシャルワーク論ⅢB　＜秋＞
科目英文名	Social Work ⅢB
代表ナンバリングコード	SOCW3410
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 5 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
塩田　祥子

授業形態	講義	その他	実務経験のある教員による授業①
		実習内容を反映等、振り返りシートに活用する時間を設ける。	研修、社会福祉士会での活動を通して知りえた情報をもとに、現場のリアルを伝える講義を努める

講義・演習概要	制度としての社会福祉を具体的に実践するための実践方法であるソーシャルワークについて、その基礎的な理解と実践活動にとって重要と思われる様々な知識の獲得を目的としている。具体的には、ソーシャルワークにおいて基本となる「人と環境との交互作用」の概念について、人と環境が相互に影響し合うという「全体的にとらえる見方」として、理解を促す。またその視点に基づいて、ソーシャルワークの対象や援助関係および展開過程を理解することで、実践活動としてのイメージ化ができることをめざす。利用者と出会うインテークから援助の終結にいたるまでの一連の援助過程を基本的な専門的技術として理解する。
学習（到達）目標	・相談援助における人と環境との相互作用に関する理論との交互作用に関する理論について理解する。 ・援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。 ・相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する。 ・相談援助における事例分析の意義や方法、相談援助の実際について理解する。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション ソーシャルワーク論ⅢAの振り返り
第2回	レジデンシャルソーシャルワーク ケアワークとソーシャルワーク（高齢者領域）
第3回	レジデンシャルソーシャルワーク ケアワークとソーシャルワーク（児童領域）
第4回	ケアワークとソーシャルワーク（障がい領域）
第5回	ケアワークとソーシャルワーク（障がい領域その2）
第6回	高齢者の貧困とソーシャルワーク
第7回	子どもの貧困とソーシャルワーク
第8回	低所得者支援におけるソーシャルワーク
第9回	犯罪被害者支援とソーシャルワーク
第10回	更生保護とソーシャルワーク
第11回	スーパービジョン
第12回	ジェネラリストソーシャルワーク
第13回	他職種連携の意義
第14回	全授業の振り返り①
第15回	全授業の振り返り②

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	50%
レポート	30%
その他	20%

成績評価の方法（コメント）	授業最後に試験あり。毎回授業後に振り返りシートを記入。
---------------	-----------------------------

事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	新聞記事等を閲覧し、社会情勢を意識する。授業後は、授業中の配布物を再度確認すること
備考(管理者用)	（旧：ソーシャルワーク論Ⅲ）09～10SW生読替

【社会人の方へ】
 3 年生対象なので、社会福祉士国家試験を意識した内容になります。

講義コード	17F1220000
講義名称	Japanese Studies-アニメにみるエコロジー　＜秋＞　※英語による講義
科目英文名	Japanese Studies-Ecology through Animations
代表ナンバリングコード	LACL3400
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 5 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
尾鍋　智子

授業形態	講義	アクティブラーニング	その他
			グループディスカッション(完全に英語のみで行う)

講義・演習概要	Two of the global leaders in popular animation, Ghibli Studios and Disney, have created captivating animations with endearing characters in archetypal stories that reflect a deep spiritual empathy with nature. In this class we will compare and contrast Japanese and Western thoughts about ecology as seen through some seminal films of these two animation giants. By examining these popular art works within the context of their historic Christian, Shinto, and Buddhist philosophies, as well as modern ecological movements and thinking, we will come to better appreciate the similarities and differences between Western and Japanese thinking, and their development in the past few decades.
学習（到達）目標	Each class will present a comparison of one aspect of ecological thinking and its distinct expression in one Ghibli or Disney film. These “case studies” will demonstrate an understanding of ecological thinking and analysis.

講義・演習計画

回	内容
第1回	Overview: How and why do we study ecology in popular culture?
第2回	Nature worship: Our Neighbor Totoro 1
第3回	Nature worship: Our Neighbor Totoro 2
第4回	Questioning the hierarchy of human beings, animals, and plants: Bambi 1
第5回	Questioning the hierarchy of human beings, animals, and plants: Bambi 2
第6回	Questioning the hierarchy of human beings, animals, and plants: Bambi 3
第7回	Summary and Mid-term exam
第8回	Japanese popular ecological thought in Princess Mononoke 1
第9回	Japanese popular ecological thought in Princess Mononoke 2
第10回	Japanese popular ecological thought in Princess Mononoke 3
第11回	Deep ecology: harmony through female power in Nausicaa and Cinderella 1
第12回	Deep ecology: harmony through female power in Nausicaa and Cinderella 2
第13回	Deep ecology: harmony through female power in Nausicaa and Cinderella 3
第14回	Deep ecology: harmony through female power in Nausicaa and Cinderella 4
第15回	Summary/Final exam

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	0%

その他	
-----	--

成績評価の方法（コメント）	Mid-term and final exams 100% 中間試験および期末試験 100% 毎回出席が原則。5 回以上欠席すると評価の対象外となる。ただし公認欠席は除く。15分以上の遅刻を 3 回した場合 1 回の欠席としてカウントする。日本語での解説は一切行わないので授業の内容や他の学生の発言がほぼ100%理解できる英語力があることが望ましい。グループディスカッションも必ず英語のみで行うこと。完全英語のみの授業であることを理解した上で履修すること。
---------------	---

事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間）	Students are expected to review each week’s topic after class focusing on specific scenes of analysis.
キーワード	Japanese ecology, popular culture, gender studies
備考(管理者用)	英語による講義☆（旧：学科特殊講義－アニメにみるエコロジー）02～11L生読替